

## 家族と、友達と、そして自分自身

北野小学校長 丹羽 郁人

大好きな短歌がある。これは、北野小学校の現在の六年生が、昨年度末に詠んだ作品である。

おばあちゃん すき焼き食べて 過ぎす夜 みんなの笑顔 太陽みたい 大久保 晃介

晃介くんの作品は、大晦日のことだろうか、お正月のことだろうか、おばあちゃんが登場する。普段一緒に過ごしていない方も含め、大勢が集い、すき焼きを囲む。なんて素敵な光景だろう。すき焼きを囲んだみんなの笑顔。その笑顔を「太陽」だと感じ取れる晃介くんの感性と暖かさ。すき焼きの湯気の向こうの、家族全員の笑顔が弾ける。

ふるえてる 自分の体 試合中 君の一言 魔法がとける 上田 美羽

美羽さんはバレーボール部。試合が始まる前に緊張していたのだろう、体が震えている。そんな時、友の一言で魔法のように緊張が解ける。友情である。子供たちは他者意識をもち、かかわりながら成長していく。「友情」という言葉を使わずに「友情」の素晴らしさ、尊さを表現している、見事な作品である。

帰り道 真っ暗闇で 考え事 星はぼくを 明るく照らす 加仲 未来翔

子供たちは高学年ともなると、自我が芽生える。自分の存在を第三者の立場から見つめ、これから歩んでいく道をおぼろげながら模索し始めることもある。すなわち、考え事を始めるのだ。「夜道で考え事をして歩いていたら、星が煌めき、自分を応援しているような気がした」という未来翔くんは、大人への階段を着実に上がっているに違いない。

ここに紹介したのは、ほんの一部である。六年生は、家族と、友達と、そして自分自身としっかりと向き合い、五・七・七・七・七として書ききった。その歩みが、その成長が、何よりも嬉しい。

(2021・4・28)

